

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア！」

Open the Door!

国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Vol.15

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Open the Door!

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

「ヒト・モノ・コト」に支えられ 時代を超えて 愛される施設に



特集1 地元企業等と連携した
自然体験活動

特集2 冬でもできる！自然体験活動



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325
<https://myoko.niye.go.jp/>



Open the Door! Vol.15 令和3年3月発行



「ヒト・モノ・コト」に支えられ 時代を超えて 愛される施設に

「子供の頃に、国立妙高青少年自然の家を利用したことがあります。久しぶりに来たけれど、とても懐かしいです。」

このようにお話をされる方との出会いが多かった令和2年度でした。中でも、印象に残った方々をご紹介します。

○春、ドライブの途中で立ち寄ったAさん

緊急事態宣言下で県外等へ遠出ができません、近場を回っている時、「そういえば……と思いつき、寄ってみました。」とのこと。「ゆっくりしてってください。」と伝えると、「ご家族で昔話でもするようにしばらく散策されていました。」

○秋、「みょうこうミライ会議」*で視察に来たBさん

Bさんが所属するグループの課題は「妙高市への『人の流れ』の創出」。青少年教育施設も地域の資源として着目してもらい、とても活発な質疑応答が展開されました。「長岡の小学校だったけど、ここに来ましたね！懐かしい！」と語るBさんの笑顔が素敵でした。

○冬、「親子でクリスマスケーキ作り」に参加したCさん

子供たちによく声掛けをして、張り切っているお父さんがいました。ご自身もとても楽しそうにクラフトやケーキ作りに取り組んでいました。振り返りでは、「昔、利用した施設に親子で来ることができてとても嬉しいです。また参加したいです。」と充実感にあふれた表情でした。

国立妙高青少年自然の家は、令和3年度に開所30周年を迎えます。信越、妙高エリアの「ヒト・モノ・コト」に支えられ、積み重ねてきたことが、先に紹介した「懐かしい。また、訪れたい。」というオモイにつながっているのでしょうか。いつまでも、大勢の皆様に愛される施設であり続けたいと思っています。

さて、国立青少年教育振興機構では、令和3年度より、第四期中期目標・計画期間（2021～2025）に入ります。第三期までの成果と課題を踏まえ、今まで以上に各施設の特色を図るべく、事業等の改善を全職員で進めています。今回の「オープン・ザ・ドア」では2つの特集を設け、第三期の最終年度の取組についてご紹介いたします。

特集1 地元企業等と連携した自然体験活動
特集2 冬でもできる！自然体験活動

より充実した事業にするためにも、たくさんのご意見をお寄せいただければ幸いです。

※都市部企業、市内団体・企業、妙高市の三者による協働チームを組成し、効果的で実行力の高い政策につなげていくことを目的としている組織（妙高市HPより）



魅力を再発見！

地元企業等と連携した
 自然体験活動

トキ鉄でGO!!

子供たちに体験活動の機会を提供したい、朝夕をはじめ地域の足として人々に愛されているえちごトキめき鉄道の魅力をお子供たちに感じてほしい、そんな願いからえちごトキめき鉄道株式会社との連携事業「トキ鉄でGO!!」がスタートしました。

まずは、「鉄道クラフト」。自然の木を使ったスプーン、フォーク作りです。木の枝をのこぎりやナタで好みの長さや形にし、大好きな列車のデザインを描きました。今にも走り出しそうなスプーンやフォークが完成しました。

夕食後は鉄道講座「トキ鉄ってどんな会社?」。講師にえちごトキめき鉄道職員をお迎えし、列車や駅に関する豆知識や、二本木駅のスイッチバックの仕組みを教えていただきました。メモしながら熱心に話を聞いている子供たち。楽しいクイズや質問タイムで大いに盛り上がりました。

翌日は、「二本木駅舎ガイドツアー」。前日に仕組みを学んだスイッチバックする列車の動きを実際に見て、リゾート列車「雪月花」の出迎えと見送りをしました。「雪月花」の美しさに、大人も子供もうっとり! 「乗りたいねえ。」と参加した幼児が思わずつぶやく「コマモ」。

その後、特別に許可をいただき、線路の上を歩いて、雪囲い(国の有形文化財)を見学しました。古いレールが雪囲いの柱に使われていたり、線路の石が丸かったりと、実際に行ってみなければ分からない発見があり、明治、大正から今日まで地域の交通や産業を支えた鉄道の歴史を感じました。

地域の鉄道会社との連携で、自然の家を飛び出した体験活動が実現しました。歴史あるものを大切にしながら、現代的なリゾート列車「雪月花」でも魅了するえちごトキめき鉄道の魅力を存分に感じた2日間でした。

国立妙高青少年自然の家は、青少年・親子を対象とした事業や青少年教育指導者を対象とした事業などを行っています。今回は、地域の足として人々に愛されているえちごトキめき鉄道株式会社やNPO法人信越トレイルクラブなど、地域で活躍している企業や団体と連携した事業を実施しましたので、ご紹介します。



鉄道講座



二本木駅舎ツアー
 & 線路探検



Switch back!



鉄道クラフト





NPO 法人信越トレイルクラブ HP
<https://www.s-trail.net/>

信越トレイルキャンプの様子は
 Instagram #信越トレイルキャンプ
 からご覧になれます。



登頂達成！

参加者アンケートより

信越トレイルまた歩きたいな！と、
 ガイドブックを購入し読んでいます。

親



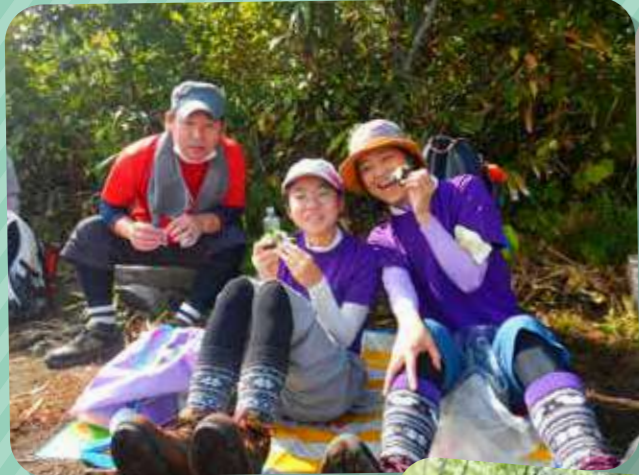
山頂でのごはんがおいしかった。疲れたけど
 楽しかったので、また行きたいです。

子



自分の足で頂上まで登れた達成感は、子供に
 大きな自信をつけたようでした。

親



山頂でのごはん



踏破おめでとう！



トレイルを進む



ガイドの皆さんと

「新潟・長野の県境にあり、自然や歴史を辿ることができる信越トレイルを、たくさんの人に知ってもらいたい」
 「親子で、自然の中を歩く心地よさを感じてもらいたい」
 「トレイルの魅力を一人でも多くの人に伝えたい」
 今年度初めて開催した信越トレイルキャンプはこんな思いから始まり、8組24名の皆さんの参加がありました。
 1日目夜の講義では、NPOスタッフの方からトレイルの成り立ちや実際の様子を写真で紹介してもらい、翌日へのイメージが高まったようです。
 2日目は、2コースに分かれて信越トレイルを歩きました。10月とはいえ、まだ緑の葉が鮮やかな森の中では、植物や木々に目を向けたり、頭上の鳥の声に気づくことができたり、普段は見逃していることへの発見と感動を楽しみながら、歩を進めました。アップダウンのあるルートでしたが、親子で声を掛け合いながら最後まで歩き通すことができました。
 今回の企画・運営に当たり、NPO 法人信越トレイルクラブに様々な面からサポートしていただきました。ルート設

信越トレイルキャンプ



下見



事務局での打合せ



信越トレイル講義



親子トレイルラン教室

「トレイルランニングの第一人者である石川弘樹さんから話を聞いたり一緒に走ったりすることで、トレイルランニングの魅力を感じてほしい」

「信越五岳トレイルランニングレースの一部区間を走ること、景色を楽しんだり、変化に富んだ地形を走るおもしろさを感じたりして、トレイルランニングの楽しさに触れさせたい」

という思いから、2年目の親子トレイルラン教室を行い、リピーターを含む6家族14名の皆さんが参加しました。

1日目の夜の講座では、石川さんがこれまで走ってきた、日本を含む世界各地の写真をもとに、体験談やトレイルランニングの魅力について語っていただきました。

2日目は、信越五岳トレイルランニングレースの一部区間（国民休暇村リフト乗り場前〜坪岳〜ボウボ岩周辺〜国立妙高青少年自然の家）の約5・6kmを走りました。気持ちのいい青空のもと、紅葉を目で楽しみ、落ち葉を踏む音を楽しみ、起伏に富んだコースを走り抜けました。途中、石川さんが立ち止まり、走り方のコツや、五感を働かせることで感じた出会い（景色、色、形、季節、時間、生き

物）を紹介してくださるので、途中リタイヤもなく、いつの間にか走りきることができました。

次は、自然の家のオリエンテーリングコースの一部（0・5km）を使って、親子ミニトレイルランニングレースを行いました。子供・大人・学生ボランティア・生ボランティアが手作りしたタスキをつなぎます。石川夫妻も参加し、計4チームで争いました。コースの終盤の坂を頑張って上り、次の人にバトンタッチ。応援が力になり、思い切り走り切った心地よい疲れをみんなで感じました。

閉会式では、石川さん直筆のメッセージ入り参加証を一人一人がもらいました。来年度もぜひ参加したいという声が多く聞こえてきました。

地元企業等と連携した自然体験活動を行うことで、私たちが普段何気なく使っている鉄道や信越トレイルなど、より身近に感じられ、その魅力を再発見したのではないのでしょうか。

これからも国立妙高青少年自然の家は、地域における青少年教育の拠点として使命を果たしてまいります。

信越五岳トレイルランニングレースとは

石川 弘樹氏



信越五岳を結ぶ全長160kmにも及ぶ山岳エリアと信越高原の各地域をつないだ壮大なコースがうりの信越五岳トレイルランニングレースは、トレイルランナー石川 弘樹氏がプロデュースしています。国立妙高青少年自然の家は、その信越五岳レースの一部区間にあたり、エイドステーションの設営のお手伝いやそのボランティアのサポートを行っています。
(残念ながら令和2年度は中止となりました。)

日本初のプロトレイルランナーとして、日本のトレイルランニングの普及のために活動。信越五岳トレイルランニングレースをはじめ、たくさんのレースのプロデュースやサポートを行っている。トレイルランニングの本場であるアメリカで行われた「グランドスラム オブ ウルトランニング」において総合一位を獲得した。



石川さんについていきます



もう少し!



参加証授与式



落ち葉を踏み分けて



トレランの魅力とは



スタート!



全員走りきりました

柏崎市立内郷小学校
雪中泊レポート

雪中泊のススメ
柏崎市立内郷小学校の挑戦



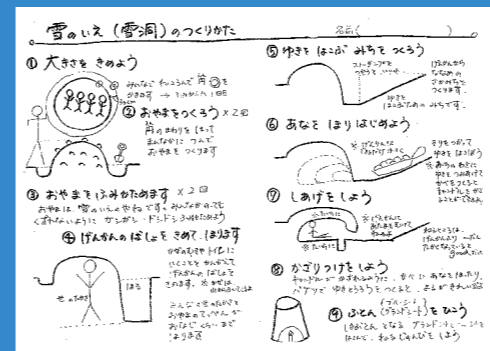
1. 事前の説明を聞く
子供たち

実施日程

(図1)

	午前	午後	夜
1日目	移動	雪中泊	雪中泊
2日目	雪中泊片づけ	雪上活動	移動

雪のいえ(雪洞)のつくりかた (図2)



イラスト提供/
小菅 江美氏 (NPO 法人緑とくらしの学校 理事長)

雪中泊とは文字通り、雪の中に泊まることです。雪の中
で一晩過ごすことを想像すると、不安になる方も多
いのではないのでしょうか。ところが、準備と寒さ対策をしっ
かりと行うことで、小学生でも楽しく快適に過ごすことができ
るのです。この冬雪中泊を行った、柏崎市立内郷小学校の皆
さんの挑戦をご紹介します。

「新潟県の小学校でいちばんハードな
自然教室がしたい、妙高ではどんな活動
ができるのか。」柏崎市立内郷小学校か
ら、そんなご相談を受けたのは一昨年
9月でした。
内郷小学校の5年生は例年7月に1泊
2日の自然教室と1月に1泊2日のス
キー教室を行っており、時数の確保が難
しいという課題がありました。また、全
校児童50名名の小さな学校です。素直で
純朴な子供たちですが、ややたくましさ
に欠ける面が見られます。
食事をすべて自炊したり、泊まること



「出してくれた雪、
持っていきよ。」

3. 中を掘り進める

道具は全部ある？

2. 雪洞作りスタート



子供たちが
作った雪洞



「短いスコップって
便利だね。」



「え？こんなとこ行けるの？」
「大丈夫、行けるよ。」



「完成を祝って」
「かんばーい」
「あったかいココアっておいしい。」



4. 雪洞完成

「がんばったよ！」

ろも自作したりする自立キャンプや、妙
高山登山を行う等々の提案をしました
が、なかなか決まりませんでした。『一
生の思い出に残るようなインパクトのあ
る活動を通して、子供たちに揺るぎない
自信をもたせたい』、という先生方の思
いを聞き、提案したのが、『雪中泊』を
行う冬の自然教室でした。最初は皆さん
「えっ？」という反応でした。しかし、
校長先生が興味をもってくださったので
す。
提案させていただいたのは『雪中泊』
とスキー教室を合わせた2泊3日の日程
です。(実際のキャンプは、新型コロナナ
ウイルス対応のため、スキー教室と分け
ての実施となりました。)時数削減とい
う課題が解決でき、なおかつハードな自
然教室ができそうだとということで、冬の
自然教室を行うことになりました。
実施にあたり、校長先生は自然の家で
行われた学社共同参画事業に参加し、身
をもって雪中泊を体験してくださいまし
た。ここで作り方に加えて、安全管理の
方法を学んでいただくことができました。
その後の保護者説明会では校長先生
のご説明の後、自然の家職員も説明する
時間をいただき、保護者の皆さんから理
解していただくことができました。
新年度に入り、担任の土田宏美先生と
何回か打ち合わせを行って、いよいよ本
番を迎えました。



「暖かいから心配しなくて大丈夫だよ。」

5. 夜の準備

「この中で眠るんだ。思っていたより、うすいなあ。」

安全管理の工夫

夜中に移動する場合でも困らないようランタンを灯す。

「この中で寝たなんて、信じられないね。」

6. 雪洞を崩す

「上の方をほっていくと、天井が落ちるよ。」

担任の先生から

自然教室を終えて

「雪中泊」という言葉に、子供たちは不安がありましたが、事前に妙高自然の家のスタッフの方から動画等を使って丁寧に説明いただくことで、子供たちの中にイメージが十分に膨らみ、ワクワクしながら当日を待ちました。活動が始まると完成まではあっという間で、子供たちは黙々と自分たちの雪洞を作っていました。「自分たちの寝る場所を作る」ことがゴールでしたので、一緒に一晩過ごす友達のことを思い、少しでも快適に過ごせるようにと一生懸命作業をしていました。完成後のココアは、これまで味わったことがないくらいおいしかったそうです。雪洞での一晩は、幻想的な風景に包まれ、忘れられない夜になりました。「自分たちの力で、こんなことができるのだ。」「なんだか自分が強くなった気がする。」と一人一人が自信をもち、夜空を眺めながら成長した自分を感じることができました。

準備や事前指導など、苦労もありましたが、プログラムを終えて一回りも二回りも成長した子供たちを見て、「何度でもやってみたい!」と感じました。貴重な体験をありがとうございました。

柏崎市立内郷小学校 5・6年担任 土田 宏美

担当者より

今回、関わらせていただき感じたのは「自然体験ってやっぱりいいなー。」ということです。汗をいっぱいかきながら頑張る姿、できた時の笑顔、「かんばーい」の元気な声のどれもがとても印象的でした。こんな素敵な体験を小学生の時に仲間とできる内郷小学校の子供たちがうらやましくなりました。

企画指導専門職 宇佐美 崇

自然の家でお手伝いできること

- 活動内容の相談とサポート
- 道具の貸し出し
- 安全なフィールドの提供

こうして、内郷小学校の雪中泊は無事終わりました。夏の妙高もよいですが、冬の妙高も魅力いっぱいです。自然教室は夏だけではなく、冬もできるということを示してくれた内郷小学校のチャレンジでした。

国立妙高青少年自然の家では、素敵な自然体験を提供することを大切にしています。興味をもたれた方はぜひ自然の家にお問い合わせください。いつでもご相談をお受けしています!

子供たちの感想

かまくら（雪洞）を作って眠れるのかすごく心配していました。でも班のみんなと協力しながら作っていったら、だんだん楽しくなってきました。班のみんなももっときずなが深まったと思います。寝る時はせまい感じがしたけど、思ったより居心地がよくてぐっすり眠ることができました。（中略）やり終えた今は、すごく楽しくて心配もなくなりました。またやりたいと思いました。（Cさん）

かまくら（雪洞）を作るのはとても疲れるけど、作り終わった後の達成感がすごかったです。疲れた分だけ、達成感があるんだなと思いました。夜、高台から見たロウソクの灯りがとても幻想的で感動しました。この雪の中で、かまくらの中で一夜を過ごしたことはすごいことだと思います。大きな自信になりました。（Aさん）

雪洞を作ってみて、最初は「すぐ終わるだろうな。」と思っていたけど、作り始めるとすぐにすごく時間がかかることに気付きました。雪洞が完成して、中に入ると、「頑張って作ってよかった。」と思いました。寝る時、最初は不安だったけど、班のみんなとしゃべって落ち着きました。雪中泊は初めての経験で不安ばかりだったけど、今回自然の家の方たちのおかげでいろいろなことができました。雪中泊ができて本当によかったです。（Dさん）

不安でいっぱいでしたが、いざやってみると、だんだん不安な気持ちはなくなっていきました。雪中泊は意外にも快適でした。床はそこまで平らにできなかったのですが頭に血が上った感じがしました。寝る時は雪洞の中が広がったので、のびのびと眠れましたが、少し寒い感じがしました。でもシュラフが暖かかったので、よく寝ることができました。（中略）楽しく雪中泊ができました。また、機会があればやってみたいと思いました。（Bさん）

事業報告 2020

オープンデー



コロナ禍により感謝祭が中止となり、代わりに日帰り利用の「オープンデー」を実施しました。クラフトや森探検・焚火体験などを実施しました。天候にも恵まれ、多くの皆様から来所いただきました。

親子でXmasケーキ作り



毎年恒例の大人気事業、今年も多くの家族の皆様から参加いただき、ケーキ作りを楽しみました。

教員免許状更新講習



自然の家のフィールドを活用して、体験活動の教育的意義や指導方法を理解し、教員としての資質・能力の向上を図りました。

マウンテンバイク 体験会



地元で活動する遠藤晋さんを講師に、安全にマウンテンバイクを乗りこなす技術を学び、紅葉真っ盛りの妙高の森をマウンテンバイクで駆け抜けました。

はね馬キャンプ in アグリパーク



新潟市アグリパークにて農業体験を中心とした1泊2日のキャンプを実施しました。搾乳や薪割り、アイスやピザ作りに挑戦し、ピザ作りのために畑で野菜の収穫も行いました。

妙高自然体験活動 指導者養成研修



自然の家で活動する指導者の資質向上を目的として実施しました。森での体験活動とその指導法などを研修しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった事業もありましたが、多くの方から当自然の家で開催した事業に参加していただきました。その中から一部をご紹介します。

自然体験活動指導者 (NEALリーダー)養成研修



自然の中で楽しく安全に活動するために求められる知識や技能を習得することができました。

MYOKOボランティア キャンプ



大学生を中心に、自然体験活動を通じてボランティアの手法・技術を学びました。



妙高を支える人たち

人と共にいる嬉しさ、生きる喜び、
愛を育む国立妙高青少年自然の家

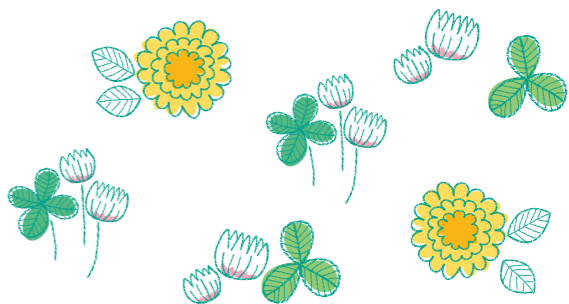
私はここ国立妙高青少年自然の家の体験活動プログラム「妙高アドベンチャー」の指導を通して人と人が触れ合う素晴らしさ、子供たちの無限の可能性に感動し、喜びを味あわせて頂いていきます。

その感動と喜びが体験できる背景には、この国立妙高青少年自然の家に関わる人々の愛と情熱のエネルギーの下支えと、心、体、生命力が大自然に修復されるお蔭だと思っております。

この土地と人を守り愛し、次世代の教育に情熱を注ぐ方々の思いが、国立妙高青少年自然の家を創設に導きました。

そして現在、綿々と続くその思いを受け継いだ、子供たちを愛し、子供たちのために自然を四季折々に整備管理し守る関係者、職員の方々が、

様々な自然体験活動を終え帰宅の途に出発する子供たちに、国立妙高青少年自然の家の職員の方々が全員並んで、子供たちが成長した喜びを感じながら、愛ある優しいまなざしで、子供たちに手を振る姿に、子供たちが嬉しそうに手を振りかえす姿が、最後の子供たちの素敵な体験の姿であり、この施設での体験の素晴らしさを物語っています。



NPO法人
妙高山麓自然体験活動指導者会
金巻 知子

これまでの妙高を振り返って

この妙高に学生サポーターとして来てから早4年が経ちました。4年間には様々なことがありました。来た当初は妙高の自然の凄まじさに圧倒され、冬には「雪の妙高」と呼ばれるだけの実力を肌で感じました。雪掘りやイグルー造りなど豪雪地帯ならではの大変さと雪を使った様々な体験を知ることができた年でした。

2年目、3年目と経つにつれ、職員の方々と働かせていただく中でうまくいかないことやつまずくこともありましたが、壁にぶつかったときに乗り越えることができたのは、利用者の方々の元気な声や姿、温かい職員の方々に支えていただいたからこそだと強く感じています。

また、乗り越えた経験や一員となつて働いた経験は社会に出てからも役立つものであり、この妙高での経験を糧に社会で活躍できるように励んでいきたいと思えます。今年度で最後となりますが、妙高に関わるすべての方々に謝意を申し上げますとともに、大好きな妙高がますます発展し、楽しい場所であり続けることを祈っています。

学生サポーター 西澤 将大



学生サポーターを通して学んだこと

私は国立妙高青少年自然の家で4年間、学生サポーターとして業務を行いました。大学の授業がない土日や長期休暇に施設整備や事業補助の業務をしていました。

4年間で学んだことは、人と人との繋がりの大切さです。国立妙高青少年自然の家に関わる人は職員他に、NPO法人の指導者、ボランティアなどがいます。そして施設を利用する利用者の方がいます。利用者の方が取り組む活動を、施設に関わる人々が自分自身の持っている知識や経験を活かし、調整や整備を行い、全力でサポートしています。その結果、楽しく安心して施設を使用することが出来ます。しっかりとした連携が取れているからこそ利用者の方の笑顔が生まれ、関わる人もやりがいを感じます。こうした良い循環が生まれることで、施設はさらに活動しやすい場所へとなっています。

このような素晴らしい施設で業務ができたことは、かけがえのない体験です。私は社会人として別の場所で働きますが、施設で学んだ人と人との繋がりを大切にしていきたいと思えます。これからの施設の発展を願っています。

学生サポーター 若槻 朱美



協賛企業紹介

国立妙高青少年自然の家を応援して下さる企業や団体、地元の商店の皆様には、日頃から子供たちの活動や自然の家の活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

平成30年度～令和2年度

【協賛金・支援金をいただいた企業】

(有) アイピーオート、朝日酒造(株)、家、Sハセガワ(株)、伊那美装(株) 長野支店、岡本石油、頸南バス(株)、(株) 謙信堂、高坂防災(株)、国際自然環境アウトドア専門学校、小山(株) 新潟営業所、新星建機工業(株)、新東産業(株) 上越支店、(株) スワロースキー、(株) 第一印刷所上越支店、(株) 高館組、(株) 桐朋、永田印刷(株)、新潟県学校スキー研究会、新潟みらい建設(株) 上越営業所、(株) 西脇電気商会、(株) ニッココトラスト、日本曹達(株) 二本木工場、(株) 橋詰商会、(株) パーツプロダクション、(株) 浜田材木店(株) 深松組上越営業所、(株) 藤田建設(株) 丸山酒造、妙高観光開発(株) 妙高カントリークラブ、妙高建設(株)、横瀬オーティオ(株)、(株) 渡辺リネン

【寄付物品等のご支援をいただいた方々】

(株) 伊藤園上越営業所、コカ・コーラボトラーズジャパン(株) 上越支店

(50音順・令和3年2月末現在)

【編集後記】

～コロナ禍での日々において～

今年、新型コロナウイルスの対応に追われた1年でした。

ここ自然の家も83日間の受入休止、子供たちの宿泊学習は少なくなり、施設内は静まり返っています。子供たちの元気に動き回る姿や笑い声、施設にとつて何気ない景色が、どれほど大切なものだったのかを痛感させられました。

当たり前の日常は、当たり前ではない。世の中、自分たちの思い通りに行くことばかりではない。そんなことを、この新型コロナウイルスは教えてくれたのかも知れません。

私たちが提供している体験活動も、同じことが言えます。その日の気象状況や自然環境など、私たちの思い通りにはなりません。今、ここで起きていることを受け止め、よりよい方法を考え判断し行動することが、生きる力へと繋がるのではないのでしょうか。

施設のご利用にあたり、皆様に「手洗いの徹底」「マスクの着用」「3密を避ける」「人との距離を適切に保つ」等の基本的な感染症対策の徹底をお願いしております。また、宿泊室の配室、食堂・入浴の時間調整にもご協力いただき、ありがとうございます。

終わりが見えない中ではありますが、今後も、職員一同、安全安心な環境を整えて、皆様のご利用をお待ちしております。

1日も早く、子供たちの元気な声が施設内に響き渡る日が戻ってきますように。

国立妙高青少年自然の家 主幹 友松 由実

Information 3

家族で自然の家に泊まろう 「妙高の自然に親しむ会」をご利用ください

国立妙高青少年自然の家の利用は学校や青少年団体での利用が原則ですが、「妙高の自然に親しむ会」に入会することで、家族で利用することができます。

- **対象** / 青少年（29歳以下）がいる家族
- **入会手続き** / ホームページ上の「ご利用にあたっての注意事項」をご承諾のうえ、お電話またはWebで利用の予約をしてください。（利用日の6か月前から可能です。）その後「入会申込書」を自然の家に郵送かFAXで送付してください。
- **会費** / 無料
※利用にあたっては当施設の活動プログラムを行っていただくことが必須となります。また、活動場所は他団体・他家族と共有になる場合があります。
自然と関わるきっかけとして、ご家族の皆様で、ぜひご利用ください。

ご意見・ご感想をお寄せください。

〒949-2235
新潟県妙高市大字関山 6323-2
TEL 0255-82-4321
FAX 0255-82-4325
E-mail myoko-so@niye.go.jp



ホームページもご覧ください。
<https://myoko.niye.go.jp/>

国立妙高



アクセス
マップ

Information 1

新型コロナウイルス感染症防止 のための取組について

国立妙高青少年自然の家では、新型コロナウイルス感染症防止のため館内全体の消毒を実施しているほか、職員のマスク着用や飛沫感染を防止するためのパーティションを受付カウンターに設置する等の取組を実施しております。

食堂においては、「密閉空間、密集場所、密接場面」の「3密」状態にならないよう利用できる椅子の数を制限して座席の間隔を空けたり、消毒、換気をこまめに行ったりしています。

また、これらの対策に伴い、脱衣所にあるドライヤーや宿泊棟の洗面台にある歯磨き用コップの撤去、朝・夕のつどいを当面的間中止する等の措置を取っております。



コロナ対策実施中

Information 2

令和3年度に開所30周年を迎えます

国立妙高青少年自然の家は、平成3年4月に全国14番目の「国立少年自然の家」として設置され、平成18年4月1日、国立少年自然の家を運営してきた独立行政法人国立少年自然の家、国立青年の家を運営してきた独立行政法人国立青年の家、独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターが統合し、当施設は「国立妙高青少年自然の家」として新たにスタートをしました。

そして、この令和3年度には、開所30周年を迎えます。これは、地元の妙高市や近隣の自治体、また、学校団体や青少年関係団体など、多くの方々のご理解とご支援を頂いてきたからです。

30周年という大きな節目に向けて、「元気いっぱい、友達いっぱい、感動いっぱい」、「子供たちにもっと自然体験をさせたい」を目標に、一人でも多くの子供たちに体験の機会が広がるよう、職員一同一丸となって、使命に取り組んでいきます。

開所当時



現在



- 令和3年度 事業案内
- GREAT JOURNEY 2021
- 地域探究プログラムオリエンテーション合宿
- 妙高自然体験活動指導者養成研修
- 自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修
- MYOKOボランティアキャンプ
- ボランティア育成プロジェクト
- 国立妙高青少年自然の家 感謝祭
- はね馬キャンプ
- 信越トレイルキャンプ
- 親子トレラン教室
- トキ鉄でGO!
- 親子でXmasケーキ作り
- 施設を利用するまでの流れ
- 1 お電話による利用申し込み予約（受付開始時期は団体種別によって異なります。）
- 2 申し込み書類の提出（利用日の1か月前まで）
- 3 自然の家職員との事前打ち合わせ（利用日の1か月前までが目安）
- 4 利用当日